

日置市吹上歴史民俗資料館の活性化を目指した 企画展示の評価と展望

大西 智和*

1. はじめに

筆者は2018～2019年度に、日置市との包括連携協定に基づく連携事業（吹上歴史民俗資料館の活性化）への取り組みの一環として、日置市吹上歴史民俗資料館の活性化をとおして、地域振興・観光振興への寄与を目指す研究を進めてきた（大西2019a, 2019b）。

2019年度はそれまでの研究成果を踏まえて、吹上歴史民俗資料館の活性化を目指した特別企画展を企画し、鹿児島国際大学ミュージアムにおいて実施した（大西2020）。タイトルは「つながる一日置市吹上歴史民俗資料館と史跡・遺跡―」、コンセプトは資料館が収蔵する貴重な資料を知ってもらうとともに、資料が関係する史跡や遺跡に関心を持ってもらい、実際に訪れてもらいたいというもので、2020年2月25日から6月30日まで開催した（図1～3）。

開催期間後半に、企画展示に関するアンケート調査を実施した。本稿ではアンケート調査の結果およびそこから得られた展望について述べたい。

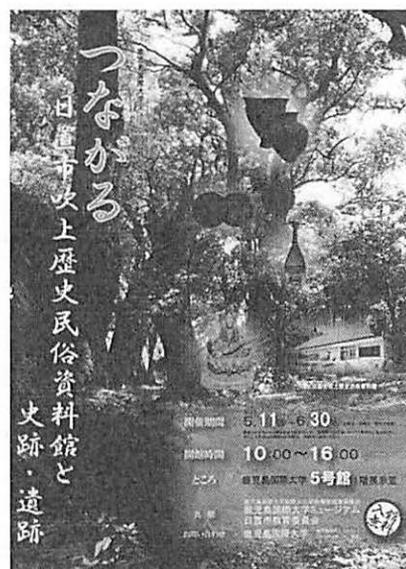


図1 特別企画展のポスター

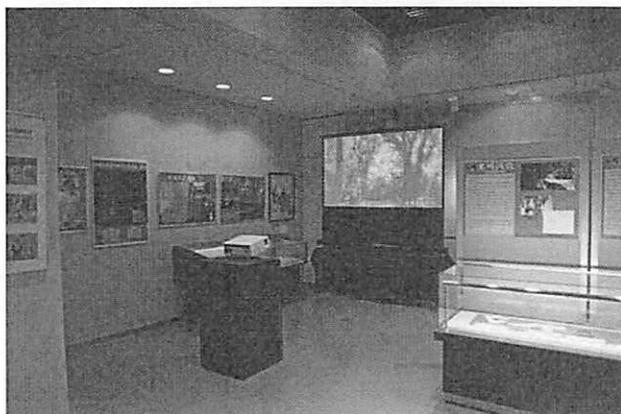


図2 展示の様子（入り口から向かって左側）



図3 展示の様子（入り口から向かって右側）

キーワード：日置市歴史民俗資料館, 博物館, 文化財, 活性化, アンケート調査

* 本学国際文化学部教授

2. アンケート調査について

アンケート調査は筆者が担当する授業の受講者に協力を依頼した。配布もしくは展示室に配置したアンケート用紙に記入してもらい、展示室内に設置したボックスで回収した。アンケートを依頼した学生数は90名程度、回収したアンケート用紙は53枚であった。設問によっては、無回答など、欠損するデータも含まれている。また、アンケートの実施方法や対象が結果への影響を与えている可能性は考慮しておく必要がある。

質問の内容は、それぞれの展示についてどの程度興味を持ったか／持たなかったかの選択（「大変興味を持った」を1, 「少し興味を持った」を2, 「どちらともいえない」を3, 「あまり興味を持たなかった」を4, 「全く興味を持たなかった」を5と以後は表記する）と、そのように答えた理由についての記述、企画展示に合わせて作成したイメージビデオに関する自由記述、企画展示を見て実際に吹上地域の史跡や遺跡を見に行きたいと思ったかどうかの程度についての選択とそのように答えた理由、そのほか気づいたり思ったりしたことについての自由記述である。実施したアンケートは末尾に「資料」として掲載した。

3. アンケート調査の結果

アンケートの設問順序に従って結果を述べるが、解釈を行う際の参考とするため、展示の内容についても簡単に紹介する。なお、展示の概要については大西（2020）を参照いただきたい。

それぞれの展示について、どの程度興味を持ったかどうかの結果は、集計して円グラフで示した（図4～10）。自由記述の回答は内容ごとにまとめて整理し報告するが、内容をつかみづらいものや少数のものもあり、すべての回答を紹介することはできなかった。

3-1 大汝牟遲神社・千本楠

展示内容

大汝牟遲神社は伊作島津家の宗社で歴代当主の尊崇も厚かった。神社内には大楠の神木や「イシノコンボサア」という願掛け石などもあり、所蔵する資料も多い。また近隣には「千本楠」と呼ばれる大楠の森があり、NHK大河ファンタジー「精霊の守り人」のロケ地にもなっている。本企画展では、大汝牟遲神社の由来や説明のパネル（社殿・神木の画像）、銅鏡3面と籠（パネル）および島津義久黒印状（パネル）のほかに、流鎗馬の写真パネル、千本楠の画像および簡単な解説によるパネルを展示した。展示資料の点数も多く、鏡、古文書、自然などバリエーションに富むものだった。

アンケート調査の結果

図4によると1の割合は46%あり、これは7つの展示の中で最も高い。2と合わせると82%となり、これは4番目の高さとなる。一方4と5の計は10%で、これは高い方から3番目である。興味を持った人も持たなかった人も多く、人によって評価が割れたことを示している。

自由記述では、神社が好きとか興味あるというものが4件、大汝牟遲神社の社殿や神木などに関心があるというものが7件、展示品の銅鏡や黒印状に関心があるというものが6件だった。最も多かったのは、千本楠に関心がある、行ってみたいというもので8件あった。

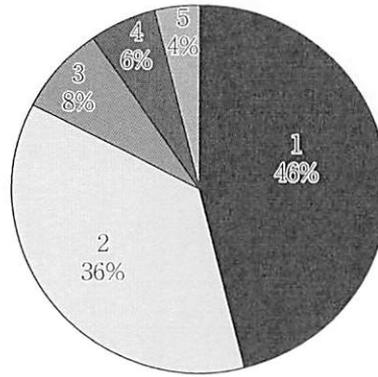


図4 大汝牟遲神社・千本楠 (n=51)

- 1：大変興味を持った 2：少し興味を持った
 3：どちらともいえない 4：あまり興味を持たなかった
 5：全く興味を持たなかった

3-2 天昌寺跡

展示内容

天昌寺は元中2（1385）年に、石屋真梁が建立したとされ、永吉島津氏の菩提寺でもある。本企画展では天昌寺の概要（現在の様子、永吉島津家墓所、三国名称図会に描かれた天昌寺の画像）、肉筆画の写真パネルを展示した。展示の点数は最も少なく、実物資料を伴わないものであった。

アンケート調査の結果

図5によると1は23%と2番目に低い割合であるが、2の割合は60%とかなり高いため、1と2の合計は71%となり、これは6番目の値である。また、4と5の計は12%で、これは2番目の高さである。強い興味を持つ人が少なく、興味を持たない人の割合もやや大きいという結果である。

自由記述では歴史に関心がある、寺や仏教に関心があるという内容のものが7件あった。この中には、『三国名勝図会』に取り上げられているからというものが2件含まれる。永吉島津家の墓所だから関心がある、見てみたいというものが9件と多く見られた。墓所が興味を引くいっぽう、気味の悪さを感じるという意見も2件あった。天昌寺の肉筆画の実物を見てみたいが2件、実物資料を展示したほうが興味を引きやすいという意見もあった。

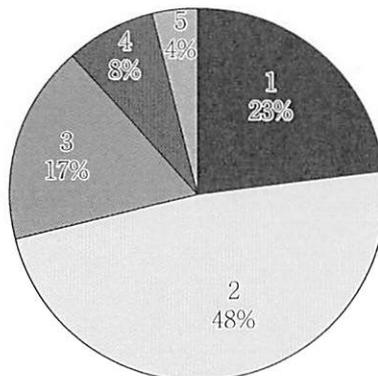


図5 天昌寺跡 (n=52)

- 1：大変興味を持った 2：少し興味を持った
 3：どちらともいえない 4：あまり興味を持たなかった
 5：全く興味を持たなかった

3-3 伊作城跡

展示内容

伊作城は面積50haと南九州屈指の巨大な中世山城である。南北朝時代に伊作島津家始祖の島津久長が築き、その後10代忠良に至る約250年間、伊作島津家の居城となった。曲輪や空堀などの遺存状態も良い。本企画展では伊作城跡の解説（空撮、亀丸城と蔵之城を隔てる空堀、亀丸城内の石碑の画像）と、伊作城散策マップ¹の一部（伊作城跡創造復元図）のパネル、実物資料として土師器3点（うち1点は灯明皿として使用されたもの）、青磁の碗5点（うち1点は参照資料として赤井田遺跡から出土したほぼ完形のもの）、銅銭3枚を展示した。実物資料は小型のものが多数を占めるが、点数は多かった。

アンケート調査の結果

図6によると1は27%とそれほど高くないが、2は60%と非常に高く、合わせると87%となり、これは2番目の高さである。一方、関心を持たなかった割合は2%と最も低かった。多くの人に興味を持ってもらえた展示と言える。

自由記述では城が好きとか城跡を見てみたいというものが3件あった。伊作城というものを知らなかったあるいはよく知らなかったが、展示を介して興味を持ったからというものが8件と最も多かった。伊作城の縄張りや遺構に関心を持ったというものが4件、伊作島津氏が関わる城だから興味があるというものが5件、土師器、青磁や銅銭といった出土遺物に興味を持ったというものが7件あった。

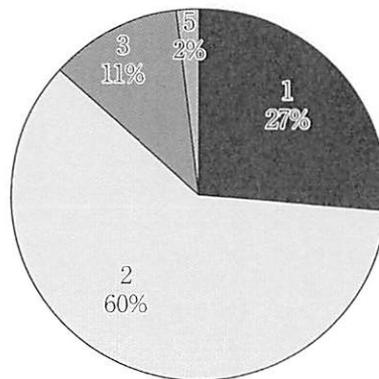


図6 伊作城跡 (n=53)

- 1: 大変興味を持った
- 2: 少し興味を持った
- 3: どちらともいえない
- 4: あまり興味を持たなかった
- 5: 全く興味を持たなかった

3-4 常楽院・妙音十二楽

展示内容

建久7(1196)年に薩摩に下った宝山検校によって建立されたと伝えられる。歴代の住職は琵琶を吟弾して仏法を広めたが、その際に用いられた琵琶が薩摩琵琶に発展したと言われる。妙音十二楽は南九州各地の僧が集まり、琵琶・太鼓・笛・ホラ貝など8種の楽器によって合奏される²。本企画展では常楽院と妙音十二楽の解説（現在の様子2枚、妙音十二楽の画像）と、琵琶、妙音天を展示した。琵琶は伝宝山検校のものとされるが、高桑(2004)によると、江戸時代の製作と考えられる。

1 鹿児島県吹上町日新公顕彰会が制作したものである。

2 担い手不足のため、2019年10月に行われた演奏が最後となった。

アンケート調査の結果

図7によると1が43%、2が42%で合わせると85%となり、これは3番目の高さである。一方、興味がないは4%と低いことから、興味を持ってもらえた割合の高い展示だったと言える。

仏教に関心があるからという回答は1件のみで、これは天昌寺と比べるとかなり少ない。音楽や薩摩琵琶に関わっているからという回答は5件あった。また、展示した琵琶や妙音天に興味を持ったというものは10件、妙音十二楽に興味を持ったとか聴いてみたいという回答が10件あった。常楽院についての説明不足を指摘する意見もあった。

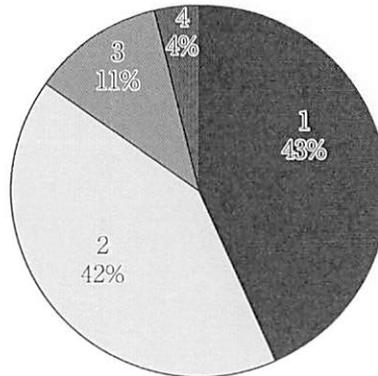


図7 常楽院・妙音十二楽 (n=53)

- 1: 大変興味を持った 2: 少し興味を持った
 3: どちらともいえない 4: あまり興味を持たなかった
 5: 全く興味を持たなかった

3-5 辻堂原遺跡

展示内容

古墳時代を中心とする集落遺跡で多数の住居跡が検出され、多量の土器などが出土している。本企画展では遺跡の解説（溝と住居跡の画像各1枚）、各種の土器や軽石製品、炭化米を展示した。土器は甕（完形に復元）1点、やや大型の壺（完形に復元）1点、壺、小型壺（完形）1点、製塩土器と考えられる脚部1点である。資料の点数は今回の展示では2番目に多く、大型の土器も展示したため展示のスペースは広めであった。

アンケート調査結果

図8によると1は38%あり、これは3番目の高さである。2は40%で1と合わせると78%となり、これは5番目の高さである。4と5の計は13%でこれは最も高い値となる。大変興味を持った人は比較的多いものの、興味を持たない人も多く、総じて興味を持ってもらえた展示とは言いにくい結果である。

自由記述では歴史や遺跡に関心があるからというものが6件、辻堂原遺跡に関心があるというものが3件あった。最も多かったのは、出土品の展示についての関心を記したもので13件あった。炭化米が残っていることに驚きを感じた、土器が大きくて驚いたとか、大きすぎて使いにくいのではないかと思った、細かい土器片が接合されていてたいへんな作業だと思ったなどがあつた。ほかに、遺跡そのものについてよく理解ができなかった、（遺跡は）見応えがなさそうだから、という意見もあった。

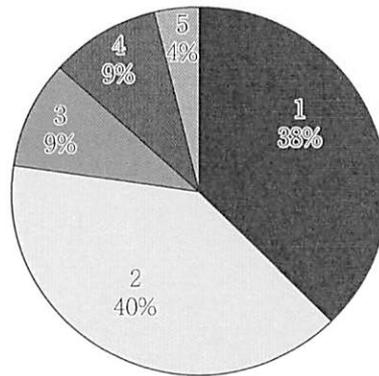


図8 辻堂原遺跡 (n=53)

- 1: 大変興味を持った
- 2: 少し興味を持った
- 3: どちらともいえない
- 4: あまり興味を持たなかった
- 5: 全く興味を持たなかった

3-6 黒川洞穴

展示内容

縄文時代を中心とする生活空間として利用された遺跡で、埋葬人骨も確認されている。本企画展では黒川洞穴の遺跡の概要（発掘調査の写真2枚、洞穴の実測図1枚）のパネル、「黒川式」土器の破片2点、獣骨3点、貝輪1点、骨針1点を展示した。小型の資料が多くを占めるため展示のスペースは狭くないが、点数は今回の展示では多めであった。

アンケート調査の結果

図9によると1は33%とそれほど高い値ではないが、2の割合が高いため、1と2の計は7つの展示のうちで最も高い。興味がない割合も低めであり、総じて興味を持ってもらえた展示と言えよう。

自由記述では洞穴そのものに関心を持った、洞穴で人々が暮らしていたことに関心を持ったなどが14件あった。その中には、洞穴に行ってみいたいというものが5件含まれる。また、出土遺物、とくに獣骨や貝輪に興味を持ったという回答が9件あった。ほかに、鹿児島県の指定文化財だからというものが1件あった。指定文化財だから興味を持ったという回答は、ほかの展示でも少数見られた。興味深い回答として、過去の調査風景の写真に生徒が写っていることから、地域の人の参加がうかがえたことに興味を持った、というものがある。

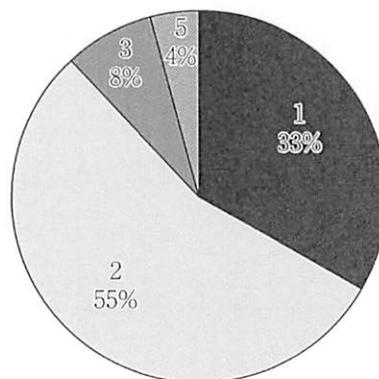


図9 黒川洞穴 (n=51)

- 1: 大変興味を持った
- 2: 少し興味を持った
- 3: どちらともいえない
- 4: あまり興味を持たなかった
- 5: 全く興味を持たなかった

3-7 入来遺跡

展示内容

弥生時代から古墳時代にかけての遺跡で、「支石墓」も確認されている。本企画展では遺跡の概要（支石墓、溝状遺構、溝状遺構内の遺物出土状況の写真各1枚）のパネル、「入来式」の甕の破片2点と完形の小型壺1点を展示した。展示スペースは狭く、展示点数も少なかった。

アンケート調査の結果

図10によると1は19%で最も低く、1と2の合計も61%でこれも最も低い。4と5の計は10%でこれは3番目の高さである。総じて興味を持ってもらえた割合が低い展示と言える。

遺跡の内容（発見の経緯、確認された遺構、遺跡が大規模であることなど）についてが18件あったが、内容は多岐にわたった。その中で支石墓に興味を持ったとか見てみたいというものは6件あって、まとまりを示している。内容が多岐にわたったのは、やや捉えどころのない展示であったことを示しているのかもしれない。ほかに、展示品に興味を持ったというものが4件あった。興味を持たなかった理由に、見応えがなさそうだというものが1件あった。

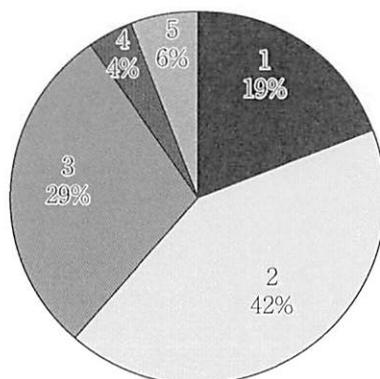


図10 入来遺跡 (n=52)

- 1：大変興味を持った 2：少し興味を持った
 3：どちらともいえない 4：あまり興味を持たなかった
 5：全く興味を持たなかった

3-8 イメージビデオの感想

今回の特別企画展示ではイメージビデオを制作し、企画展への導入として用いた。時間は3分ほどの長さで、E.サティの「ジムノペディ第1番」の音楽に乗せて、企画展示に取り上げた史跡・遺跡にそれらと関連する資料の画像を重ね合わせて紹介し、さらに、企画展に関心を持ってもらうことを意図したメッセージを加えた。イメージビデオということで、史跡や遺跡の名称、資料の名称は表示したが、解説は一切入れなかった。展示室の開館時間中、入り口の左正面に置いた80インチのスクリーン上にエンドレスで上映した³。

吹上の史跡・遺跡やそれと関係する資料にどのようなものがあるのかがよくわかる内容だったという回答が多かった。また、ゆったりとした調子の曲と画像の展開がよく合っているという指摘も多かった。ビデオで紹介した資料の解説を入れた方がよい、展示したもの以外の資料も紹介した方がよい、研究者や地元の人のお話などを加えた方がよい、音声による解説を付けても良いのでは、という指摘もあった。

3 ほかに、映像資料として「吹上ちゃんねる」<https://www.youtube.com/channel/UCFdM4kzO37kFuSoAffYsduw/videos> (2020.1.25) の番組中から、本企画展で取り上げた史跡や遺跡と関連するものを紹介させてもらった。

3-9 この企画展示を見て実際に吹上地域の史跡や遺跡を見に行きたいと思ったか

図11によると1（ぜひ行ってみたい）と2（機会があれば行ってみたい）で82%を占めることから、展示した資料とゆかりのある史跡や遺跡を訪れたいと思った割合は高いと言える。その場合、今回の特別企画展のコンセプトは、一定の成功を収めたと言ってよいと考えられる。

自由記述では、歴史が好き、自然が好きというものが6件、企画展示を見て関心を持ったからというもの10件、吹上地域にこのような史跡や遺跡があることをよく知らなかったからというもの5件あった。ほかに吹上は近くだからというものが2件あった。どちらともいえない理由として、すでに何カ所かの場所には行ったことがあるから、遠いからというものがあった、また、行きたいと思わなかった理由としては、時間がないというものがあった。

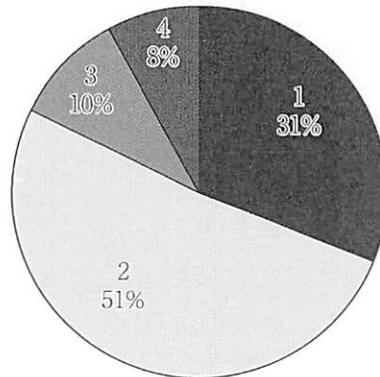


図11 実際に史跡や遺跡を見に行きたいと思ったか (n=51)

- 1：ぜひ行ってみたい 2：機会があれば行ってみたい
 3：どちらともいえない 4：行こうとは思わない

3-10 気づいたり思ったりしたこと。

とくに改善点の指摘に関する意見を紹介する。資料をわかりやすくするための説明の工夫を求めると、展示資料の説明が不十分、パネルの文字が小さくて読みにくかった、照明が暗くて読みにくかったという意見があった。

4. まとめと展望

各展示についての興味の度合いのグラフ（図4～10）によると、1（大変興味を持った）と2（少し興味を持った）との計は高い方から、黒川洞穴（88%）、伊作城跡（87%）、常楽院・妙音十二楽（85%）、大汝牟遲神社・千本楠（82%）、辻堂原遺跡（78%）、天昌寺跡（71%）、入来遺跡（61%）であった。筆者には黒川洞穴が最も高いという結果はやや意外であったが、自由記述を参照すると、黒川洞穴が人々の生活した跡を留める遺跡で、しかも現在入ることができないという、ある意味で特異な要素が影響している可能性がある。伊作城は、城の規模や遺存状態の良好さ、展示品の種類や量も多かったため関心を持ってもらえたのであろう。島津氏に関わる城という要素も大きいと思われる。3番目は常楽院・妙音十二楽であったが、この高い評価も少し予想外の結果であった。自由記述によると、音楽に関係があるということが、関心を引いていることがわかった。また、展示品も琵琶と妙音天という、今回の展示品の中では目を引くものであったことも興味を持ってもらえた要因かもしれない。4番目は大汝牟遲神社・千本楠であるが、これもやや意外な結果で、筆者はもっと上位になることを予想していた。千本楠を含む神社の魅力とゆかりのある資料の魅力は大きいと思われたが、今回の展示ではそれを十分に伝えられなかったのかもしれない。5番目と7番目は遺跡であった。どちらも考古学上は非常に重要な遺跡で知名度も高いが、遺跡を

訪ねても見るものはあまりないという状況は、興味を持ってもらう上ではネックとなろう。6番目は天昌寺跡である。今回の展示で唯一実物資料を展示することができなかつたことが影響していると思われる。

各展示に関する自由記述も加えると、興味を持ってもらえる要素をある程度うかがうことができた。

実物資料の方がパネルや写真などによる2次資料よりも関心を多く引く。大きな資料の方が小さな資料よりも関心を引く傾向が強い。資料点数が多く種類も多い方がそうでない場合よりも興味を持ってもらえたようである。土器の場合、全体の形がわかるものの方が破片資料よりも関心を引く。ほかに、自然や神秘性を感じられるもの、城や島津氏と関係がある、文化財に指定されていることは、興味を持ってもらえる要因になっている。

これらの知見は、今後企画展示を行う場合に、活かすことができるはずである。貴重な実物資料を多く収蔵する日置市吹上歴史民俗資料館は、有利な条件を有すると考えられる。また、文化財に指定された史跡・遺跡は興味を持ってもらうことに寄与することからは、日置市内の史跡や遺跡を文化財に指定する方向性が重要であると考えられる。興味や関心を持ってもらうことにより、史跡や遺跡の保存や活用に結び付くとすれば、望ましい循環である。

イメージビデオに関する問いの回答からは、イメージビデオは展示の理解に役立ったと考えられる。できることであれば、企画展示にあわせて展示内容を紹介するような動画を作成するべきであろう。そのコンテンツは、ウェブなどで公開することによって、広報にも用いることができる。動画に限らず、様々な情報メディアコンテンツは展示の理解を深めるのに役立つし、関心を持ってもらうことに寄与すると考えられる。また、展示品を詳しく紹介したり、展示品に関連することを盛りこんだ動画の制作も同様に寄与が見込まれる。なお、常楽院・妙音十二楽のアンケートの回答は、常楽院で行われている妙音十二楽の演奏風景のビデオ映像、あるいは演奏を録音したものを再生すべきであったことを示しており、今後類似の展示を行う際には留意したい。

今回の企画展示のコンセプトでは、遺跡を取り上げることの難しさを感じていた。出土遺物を見て興味を持ってもらったとしても、遺跡に行くと看板や一部の遺構以外には何もないという場合が多いからである。今回取り上げた辻堂原遺跡や入来遺跡も例外ではない。実際に、アンケートの自由記述でも「見応えがなさそうだから」という意見があった。住居などの復元が行われていない遺跡の活用には、VRやAR技術の利用が考えられ、実際に運用されている事例も増えている⁴。この技術を用いれば、例えば、遺跡でタブレット端末を遺構がある方向に向けると、画面に調査で明らかになった遺構の様子や復元された建物などの様子を映し出し、さらに、音声で解説を行うこともできる。なお、VRやAR技術を用いる方法は、遺跡だけにとどまらず寺院跡や城跡でも有効である。このようなシステムを日置市内の史跡・遺跡について構築できれば、それらの魅力の向上におおいに役立つはずである。

今回の特別企画展示の実践では様々な経験を得ることができ、また展示に関するアンケート調査からも多くの知見を得ることができた。これらのことを活かして、今後も日置市吹上歴史民俗資料館の活性化への試みを続けていくつもりである。

謝辞

本研究は平成30・令和元年度鹿児島国際大学附置地域総合研究所共同研究プロジェクトの助成を受けて実施したものである。

アンケート調査に協力いただいた皆様には深く御礼申し上げます。また、一連の研究に際して、とくに

4 例え、鴻臚館・福岡城バーチャル時空散歩システム https://www.city.fukuoka.lg.jp/keizai/c_kanko/charm/jikusanpoboshu_2.html (2020.7.28)、仙台城 VR ゴー <https://honmarukaikan.com/vr/go/> (2020.7.28) などがある。

特別企画展の開催にあたっては、日置市教育委員会より多大な協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

文献

- 大西智和 (2019a), 「文化・自然遺産や文化財の活用による地域活性化の可能性」, 『地域総合研究』第46巻第2号, 61-66頁。
- 大西智和 (2019b), 「日置市吹上歴史民俗資料館に関するアンケート調査による資料館活性化の方向性の検討」, 『地域総合研究』第47巻第1号, 67-76頁。
- 大西智和 (2020), 「日置市吹上歴史民俗資料館の活性化を目指した実践事例」, 『地域総合研究』第47巻第2号, 51-59頁。
- 高桑いずみ (2004), 『古楽器の形態と音色に関する総合研究』(平成13~15年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告書)。

資料

「つながる一日置市吹上歴史民俗資料館と史跡・遺跡」アンケート調査への協力へのお願い

5号館1階の鹿児島国際大学ミュージアムで開催中の展示を見学して以下のアンケートに答え、設置している回収箱に入れてください。なお、別の授業（例 考古学概論）で、すでにこのアンケートに協力いただいた方は、このアンケートには回答しないでください。ミュージアムの開館時間は月～金曜日、10時～16時、締め切りは7月3日（金曜日）16時とさせていただきます。

アンケートの結果は、今回の展示の評価を行うとともに、今後の日置市吹上歴史民俗資料館や鹿児島国際大学ミュージアムで行う展示等に活用させていただきます。ご協力、よろしくお願いいたします。

.....

この展示は、日置市吹上歴史民俗資料館に収蔵されている資料とそれらが関係する史跡や遺跡を紹介したものです。資料館が収蔵する貴重な資料について知っていただくとともに、資料が関係する吹上地域の史跡や遺跡を知ってもらい、さらには実際に訪れてもらうことを意図して企画しました。

1. 興味・関心を持った展示はどれですか？ 該当する□に「レ」を記入してください。

・大汝牟遲神社、千本楠

大変興味を持った 少し興味を持った どちらともいえない あまり興味を持たなかった
全く興味を持たなかった

その理由：

・天昌寺跡

大変興味を持った 少し興味を持った どちらともいえない あまり興味を持たなかった
全く興味を持たなかった

その理由：

・伊作城跡

大変興味を持った 少し興味を持った どちらともいえない あまり興味を持たなかった
全く興味を持たなかった

その理由：

・常楽院、妙音十二楽

大変興味を持った 少し興味を持った どちらともいえない あまり興味を持たなかった
全く興味を持たなかった

その理由：

・辻堂原遺跡

大変興味を持った 少し興味を持った どちらともいえない あまり興味を持たなかった
全く興味を持たなかった

その理由：

・黒川洞穴

大変興味を持った 少し興味を持った どちらともいえない あまり興味を持たなかった
全く興味を持たなかった

その理由：

・入来遺跡

大変興味を持った 少し興味を持った どちらともいえない あまり興味を持たなかった
全く興味を持たなかった

その理由：

2. 展示に関するイメージビデオ（入口から見て左側奥のスクリーン）の感想をお聞かせください。

自由記述：

3. この企画展示を見て、実際に吹上地域の史跡や遺跡を見に行きたいと思いましたか？ 該当する□に「レ」を記入してください。

ぜひ行ってみたい 機会があれば行ってみたい どちらともいえない 行こうとは思わない

その理由：

4. そのほか何でも、気づいたり思ったりしたことがあれば、お聞かせください。

自由記述：